

## 3 C区市町村包括補助 令和3年度採択事業一覧

子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

「みんなの居場所」創出プロジェクト

## はじめに

東京都は、「『未来の東京』戦略」（令和3年3月策定）においてその核に据えた**3つのC（Children(子供)、Chōju(長寿)、Community(居場所)）に係る取組を区市町村と連携して推進**し、子供が笑顔で子育てが楽しいと思える社会、誰もが心豊かに自分らしく暮らせるChōju社会、誰もが求める「居場所」につながる可以实现を目指しています。

そのために本補助事業では、区市町村の取組のうち、**既存の補助事業の対象範囲を超えた分野横断的な事業や事業効果が複数分野に波及する先駆的な事業**に対して補助を実施しております。

本冊子には、令和3年度に採択した事例を掲載しております。東京都では、来年度以降も3つのCに係る取組を都内全域に波及させるよう取り組んでまいります。各区市町村におかれましても、**事業の構築や本補助事業の活用に向けた検討に、本事例集を役立てていただけますと幸いです。**

- 1 令和3年度 子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業について . . . . . P4
- 2 子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト . . . . . P5
- 3 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト . . . . . P14
- 4 「みんなの居場所」創出プロジェクト . . . . . P24
- 5 参考 . . . . . P30

# 1. 令和3年度 子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業について

○ 以下の内容にて事業を募り、令和3年度は19事業を採択しました。

## 対象事業

- 既存の補助事業の対象範囲を超えた**分野横断的な取組**や**事業効果が複数分野に波及する先駆的な取組**  
 例：「未来の東京」戦略（121、144、168ページ）に記載のあるようなハードとソフト、教育分野と保育分野、子供と高齢者など既存事業では取組が困難であった分野横断的な事業等（記載は一例）

## 補助・申請内容

- 区市町村は、各区分ごとに補助上限額の範囲で申請可能。複数の事業を組み合わせることも可能  
 複数の区分への申請も可能であるが、一事業を複数区分に重複して申請することは不可
- 補助率・補助期間は、10/10・最大3か年（審査は毎年度実施）

区分	(1)	(2)	(3)
	子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクトに関する事業 ・公園を活用した子供・子育ての豊かな環境づくり など	自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクトに関する事業 ・高齢者のデジタルデバインド解消によるQOLの向上 など	「みんなの居場所」創出プロジェクトに関する事業 ・学校を核とした、地域の学び、居場所の創出 など
令和3年度予算額 予算計上（福祉保健局）	2億円 子供家庭支援区市町村包括補助事業	4億円 高齢社会対策区市町村包括補助事業	1億円 地域福祉推進区市町村包括補助事業
補助上限額（自治体ごと）	5千万円	1億円	5千万円
補助上限額（1事業ごと）			
基盤整備を伴う事業	5千万円	1億円	5千万円
基盤整備を伴わない事業	1千万円	1千万円	1千万円

※ 「自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクトに関する事業」は、デジタル活用が提案条件

# 2.子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

○ 次ページ以降から紹介する7事業は本プロジェクトに基づき採択されたものです。  
 ※下図のスライドは採択事業ではありません。

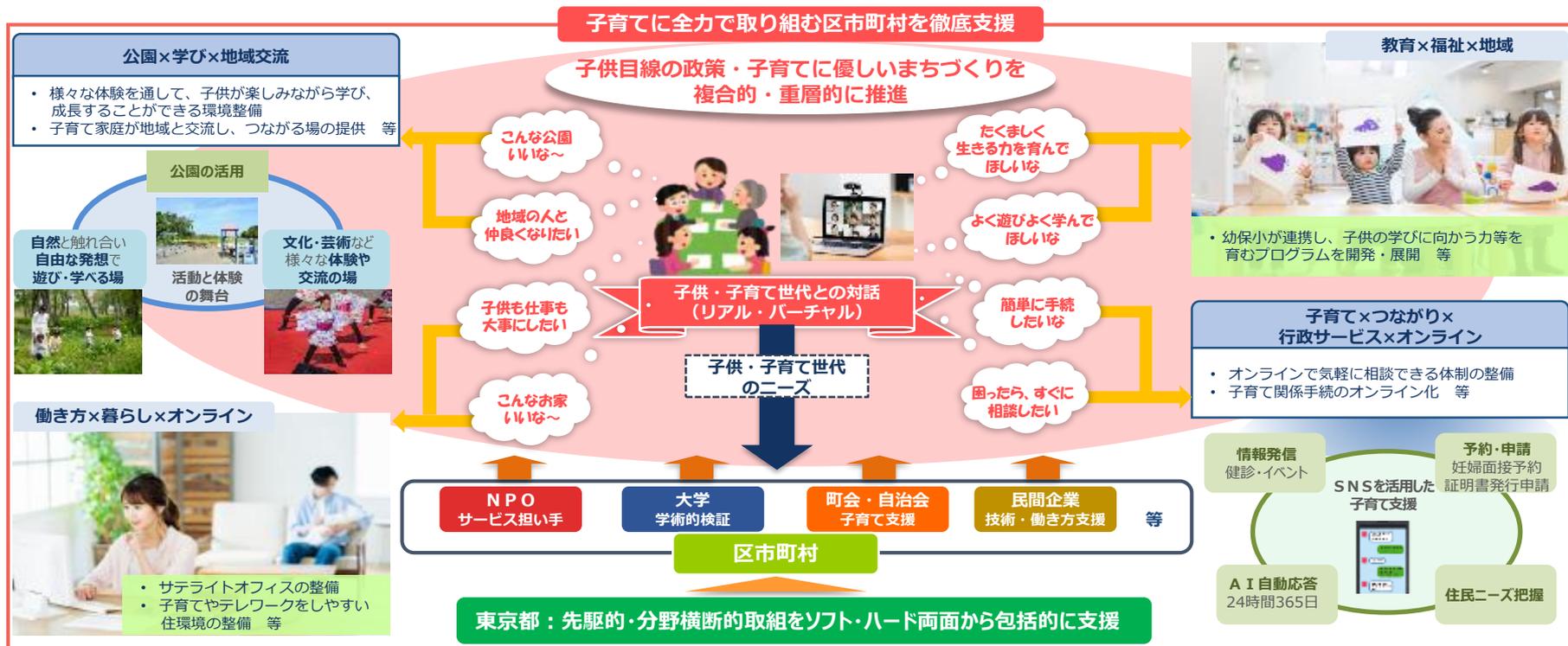
参考(「未来の東京」戦略 P121)

戦略1  
 子供の笑顔

## 2. 子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト



○ 「世界で最も子供に優しく、子供がすくすくと育つまち」を実現するため、都内区市町村の手上げ方式で、子供・子育て世代との対話等を通じた、先進的で意欲的な子供目線の政策や子育てに優しいまちづくりの推進を、都が徹底的に支援し、都内全域に展開



### 3か年のアクションプラン (主要)

具体的な取組	2020年度末 (見込み)	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
区市町村の先駆的・分野横断的取組を包括的に支援	新たな補助スキームの制度設計	4自治体	8自治体	12自治体

### 2030年への展開

■ 全区市町村に展開【2030年】  
 子供が笑顔で子育てが楽しいと思える社会を実現

## 【採択事業一覧】子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

- 子供や子育て世代のニーズを踏まえた子ども目線の新たな公園づくり【大田区】…P7
- 地域みんなで子供を育てる拠点づくりの実施【渋谷区】…P8
- 中小規模公園活用プロジェクト【豊島区】…P9
- 公園でのイベントやプレーリーダーの配置を通じた子育て環境の整備【江戸川区】…P10
- 多様な芸術体験ができるパークミュージアムの整備【町田市】…P11
- 野外遊び場における新たな子供の仕事体験・居場所づくり推進事業【国分寺市】…P12
- 複合公共施設を核とした幼児教育推進事業【国立市】…P13

## 地域特性に合わせた子供が楽しみながら学び、成長することができる公園づくり

## 事業内容

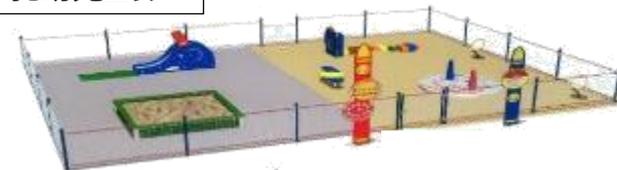
## ◆地域ごとのニーズを踏まえた子供にやさしい公園づくり

- ・公園の約6割が1,000㎡未満の小規模公園
- ・地域ごとのニーズ調査に基づき公園を整備し、さらなる利活用を推進

## ○乳幼児エリア

- ・近隣保育園の代替園庭としてのニーズや未就学児の利用ニーズの高い公園に未就学児の利用に特化した、ゆるやかに囲まれたエリアを整備
  - ➔様々な年代の子供たちが混在利用する園内でも未就学児が安全に遊べるスペースを確保

乳幼児エリア



## ○インクルーシブ遊具

- ・障害を持った子供が遊べる遊具がなかった
  - ➔障害の有無を問わず利用可能であり、様々な子供たちが共に楽しく遊べる遊具を整備

インクルーシブ遊具



## ○のびのび芝生広場

- ・子供が自由に走り回れ、イベント開催可能な環境整備

## ○ボール遊び広場

- ・「危険」「うるさい」という理由でボール遊びができる公園は限られていたため、近隣住民と協議の上、高学年の子供が思い切り体を動かせる場を整備

ボール遊び広場



## ポイント

- 高学年のボール遊び広場を設置するため、地域のイベント広場としても活用可能とすることで、地域住民と合意形成
- 園内を年齢層に応じたエリア分けをすることで、様々な年齢の子供が安全に遊べる公園にすることに加え、保育園の代替園庭として活用することで地域の保育環境を充実

## 妊娠期から18歳までの全ての家族へ総合的で切れ目ない支援 + 利用者である親同士や地域住民による子育てシェア

### 事業内容

#### ◆子育てネウボラ施設の開設（妊娠・出産、産後、育児、就学支援の新たな拠点）

- ・親子に担当保健師がつき、あらゆる相談を一元的に受付
- ・中学校卒業後の悩み等の相談対応
- ・幼保・小・中学校へのスムーズな就学接続支援

身体性に出会う大型遊具

#### ◆「地域みんなで子供を育てる」子育てひろば

- 専任コミュニティコーディネーターを配置し、地域の力で子育て支援
- 食を通じたコミュニケーション
  - ・妊婦・乳児から高齢者まで多世代が集えるコミュニティカフェを設置
  - ・味噌づくり体験、生産者との出会いの場、交流都市の食材を利用した食育イベント
- 地域との協働ワークショップ
  - ・区立公園での地域イベント参加
  - ・区内企業との連携イベント開催、区内の飲食事業者による講座
- ひらめきや出会いの場となるアトリエ
- デジタルコンテンツ（アトリエ作品のデジタルを活用した掲示等）
- 企業等から出る廃材を子供たちの制作活動に活用
- WEBプラットフォームを利用した参加型の意見反映

座って  
本を読める  
大階段



カフェ、テレワークスペース



ゆったり過ごせる子育てひろば、通院時等の一時預かり保育

### ポイント

- あらゆる子育てに関する悩みを相談できる窓口と、親子同士の交流や地域住民との交流が可能な子育てひろばを一体的に整備することで、「地域みんなで子供を育てる拠点」を実現
- アトリエでの創作活動などの多様な取組や、他者とのコミュニケーションにより子供たちの感性・自主性を育むとともに、テレワークスペースの併設など働く保護者への支援や、デジタルコンテンツによる魅力発信を行う多分野にわたる取組である

点在する小規模公園を活用し、地域との対話から子供の遊び場・地域コミュニティの場を創出  
(1人当たりの公園面積は23区最低、区内の保育園の8割は園庭なし → しかし、面積当たりの公園「数」は、多い)

## 事業内容

### ◆地域住民とともに公園を育てていく「井戸端会議」を開催

- 行政と公園利用者が公園内でいっしょに考え、整備等に反映  
ex. イベントを実施し、地域住民は紙芝居や物々交換イベントを、子供たちは自らお店を企画し、手作り菓子の販売

### ◆インクルーシブ遊具・モバイル遊具の設置

- 小さな公園で遊びと地域のお祭りの共存を考え、移動できる遊具を設置
- おもちゃの倉庫を設置し、園庭のない保育園向けに利用開始

### ◆コミュニティガーデンの整備・活用

- 子育て世代・保育園等のヒアリング結果 → 子供たちに土いじりをさせたい  
近隣保育園や地域住民がコミュニティガーデンの維持管理を行う
- コミュニティガーデンのレイアウトを子供たちとのワークショップで決定  
住民と持続的に植え替えを実施することにより、地域コミュニティを形成
- 車椅子の利用者や多世代でも使えるレイズドベッドを整備

### ◆移動式の図書館・遊具の貸出し・カフェ（パークトラック）

- スタッフがプーラーダーとして遊びも誘導、親子で安心して過ごせる空間に  
ex. モバイル遊具(卓球台)を貸出し、子供たちがチラシを作って大会を開催

井戸端会議、子供もシール投票



インクルーシブ遊具



コミュニティガーデン



おもちゃ倉庫



パークトラック



レイズドベッド



## ポイント

- ハード整備に頼らず、既存の中小規模公園を活用する方法について、子供を含めた地域住民と共に考え、地域のニーズを反映した「やりたいことが出来る公園」づくりを行い、住民の積極的な利用と交流を促進
- 子供の意見を聞き、意欲を引き出し、子供が公園でやりたいことを実現できるように大人達がサポート

## 子供の遊びと学びの体験の場となる公園でのイベントやプレーリーダーを通した子育て環境の創出

## 事業内容

◆子供が遊びながら学ぶ力を伸ばす、プレーリーダーの配置

- ・子供の外遊びについて「遊び方が分からない」、「集団での遊びに発展しない」、「親は広場を見ても遊びを教えられない」などの課題があり、運動機会が減少  
➡プレーリーダーをモデル地区の公園へ配置
- ・子供たちのボール遊びや自由な発想での遊びを手助け
- ・来園者同士の交流の輪をつくり子供や子育て世代同士の交流を活性化
- ・地域の専門学生をプレーリーダーに育成し、新たな公園へ配置

◆子供の遊び方、プレーリーダーのノウハウ動画の発信

- ・ノウハウ動画をHPやSNSで発信するとともに学校や保育園にもPRし、域内全体の子供、保護者へ波及

◆地域住民によるイベント開催を支援

- ・公園にて子育て世代も参加しやすく配慮されたイベント・ワークショップを開催し、住民の地域交流に関するニーズ調査  
➡地域交流の場を増やし、子育て家庭や地域の交流を活性化
- ・イベント実施により生まれたつながりを生かし、イベント事業者が地域住民と協働してイベントの企画運営  
➡地域住民や地域団体主体で活動するノウハウを獲得

## ポイント

- プレーリーダーの配置により、全力で体を動かす遊びによる運動能力の向上や、集団での遊びを通した非認知能力の向上など、子供の遊びの質を高める重要な取組である
- プレーリーダーの動画を広く発信することにより、遊び方やノウハウをより多くの子供と保護者に波及させる工夫が見られる

～子供のより良い成長のための様々な体験を提供する環境づくりの実施～

公園と美術館を一体的に整備し、多様な文化芸術や豊かな自然を体験しながら、  
地域の人と出会い、学び、楽しむことができる「パークミュージアム」

事業内容

◆体験工房の整備

- ・ガラス、陶芸、版画など、多様な芸術を気軽に体験
- ・オープンスペース、カフェ等を併設
- ・街なかや学校と連携した企画の実施

吹きガラス



陶芸体験



◆住民参加型プラットフォーム（公園活用プロジェクト）

- ・“公園で〇〇したい”という声を集め、地域住民が交流しながら、公園活用実験を企画・実施

公園活用アイデアの抽出・共有



子供も気軽に参加できる  
公園での演奏会



公園マップづくり



クルマにお絵かき



公園で宿泊キャンプ



ポイント

- 通常の公園整備の枠を超えて、子供をはじめとする多くの人々が、芸術体験や自然体験を通して、楽しみながら学び、交流できる環境づくりのため、ハード・ソフトの両面から取り組んでいる
- 住民主体で公園の活用について検討する場を創設し、地域住民のコミュニティ形成、公園を活用した自発的な取組を促進をするとともに、公園利用ルールや今後の整備内容にも反映

## 駄菓子屋・カフェを核とした子供の仕事体験・居場所づくりのための施設整備

### 事業内容

#### ◆ 野外遊び場と子育て支援スペースが併設された既存施設を新たに整備

##### ① 野外遊び場に駄菓子屋を開設

- 中学生・高校生を含む子供たちが店員として仕事を体験できる  
(施設内の買い物でのみ使えるチケットが仕事体験の“給与”として支給)
- 親世代にも懐かしい「駄菓子屋」を設置することで多世代が楽しみながら交流

##### ② カフェスペースを設置

- 「夕暮れカフェ」：中学生・高校生を主な対象として平日夕方に運営
- 「土日カフェ」：乳幼児親子を主な対象として土日に運営
- ・両施設の運営には中学生・高校生・地域のボランティアが携わる
- ・不登校の子供も参加しやすいよう施設運営業者がコーディネート

##### ③ 野外遊び場の歩道整備

- ・コンクリートの歩道を整備し、乳幼児親子、車いす利用者も遊び場を利用可能にする

### 施行前



※屋内外での遊び場と子育て支援施設を併設

### 施行後



左：駄菓子屋、右：カフェスペース



### ポイント

- 既存の子供の遊び場・子育て支援施設に、仕事体験の場を常設することで、これまでにない子供の遊び・学びの機会を創出する取組である
- 施設を利用する子供たちで構成する「こども懇談会」で出された「お店屋さんをやりたい」「駄菓子屋があるといい」という声を実現するとともに、子供たちの話し合いを運営に反映するという子供の目線に立った取組である

### ※全体図 図面



※駄菓子屋はトレーラーハウスにて設置

「まちなかの大きな家と庭」をコンセプトに、多様な地域の人々が集まり、交流することで、将来に向かって生き抜く子どもの力の原点を創造

## 事業内容

### ◆複合公共施設の整備

- ・まちぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの心豊かな子育てを支援  
〔機能〕子育てひろば、児童館、幼児教育センター  
地域活動ホール、スタディコーナー、屋外多目的ひろば

児童館



多目的ひろば



### ◆まちぐるみ・地域ぐるみで子育て・幼児教育

- 〔現在〕・非認知能力に着目した1歳児を中心とした親子通所事業  
・幼児教育に係る講演会、保育園等職員の研修会

〔拡充〕R4年度、施設完成・幼児教育センター開設を契機に機能強化

#### ①幼児教育と子育て支援の一体的取組

- 0歳児からの教育環境づくり ●支援の輪を支える研究・研修 ●親子カフェ事業(子育て家庭を繋ぐ)

#### ②多世代の関わりによるアプローチ

- 多世代子育てステーション機能（地域の高齢者、若者、商業・農業者などが参加し、子供の育ちを支える）

#### ③切れ目のない支援のレベルアップ（幼保小連携にとどまらず、子育てを支える「人と場と機会」を実現）

スタディコーナー



## ポイント

- 幼児教育や子育て支援の場を行政分野、所管の垣根を越えて一体的に整備
- 子供が地域の大人と触れ合う場を設けることで、これまで取り組んできた非認知能力に着目した幼児教育を更にレベルアップ
- 施設整備に向けた地域住民との協議を通じて築いた信頼関係により、多世代交流への積極的な住民参加が期待できる
- 中高生の意見を聴取し、整備内容に反映（屋外のダンスミラー、スタディコーナーなど） ➡ 子供の目線での施設整備

# 3. 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

○ 次ページ以降から紹介する8事業は本プロジェクトに基づき採択されたものです。  
 ※ 下図のスライドは採択事業ではありません。

参考(「未来の東京」戦略 P144)

## 1. 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト



○ 高齢者をはじめ、誰もが元気で心豊かに、自分らしく暮らせる地域の実現に向けて、意欲ある区市町村が多様な主体と連携し、地域資源を活用しながら、デジタルデバйд対策や幅広いデジタル活用により、QOL向上を図る取組等を都が強力に支援。

成果検証し、都内全域に展開



### 地域の実情に応じた“Chōju”の取組を支援

#### デジタルを活用したQOLの向上

デジタル環境の整備  
・スマートフォンの貸与等

アプリの開発・提供

Wi-Fi

デジタル活用支援  
・スマートフォン活用講座の実施

・デジタル活用を支援する人材を、高齢者から発掘・育成

QOLを向上させるスマートフォンのアプリの開発・提供

健康増進：社会参加、運動等

安全・安心：見守り、防災等

高齢者の中でのアプリ活用

QOLの向上を体感

ビッグデータのQOL向上

・端末から得られたビッグデータを分析し、高齢者の潜在的なニーズを把握

高齢者施策をブラッシュアップ

#### 健康増進に向けたまちづくり

健康長寿のまちづくり

地域で身体を動かしたくなる環境の整備

・公園への健康遊具の設置

・ウォーキングコースの設定 等

健康遊具やウォーキングコース等で運動した場合には、健康アプリを通じてポイント付与

【ポイント交換例】健康器具、自転車、美術館招待券 等

健康アプリによるインセンティブ付与

高齢者の健康増進に向けた継続的な行動を支援・促進

#### 多世代交流拠点・公的住宅におけるデジタル活用の推進

多世代交流拠点等において先端技術を活用し、非接触での交流が可能な環境を整備

公的住宅におけるA I等を活用した一人暮らし高齢者の見守り

### 3か年のアクションプラン (主要)

具体的な取組	2020年度末 (見込み)	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
区市町村の先駆的・分野横断的取組を包括的に支援	新たな補助スキームの制度設計	4自治体	事業実施 区市町村の増加	事業実施 区市町村の増加

### 2030年への展開

■ 都内全域に展開【2030年】  
 ・地域の实情に応じて幅広くデジタルを活用し、誰もが心豊かに自分らしく暮らせる“Chōju”社会を実現

## 【採択事業一覧】 自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

- デジタルデバイド対策のミッシングリンク解消と健康長寿の好循環創出の総合支援事業【港区】 …P16
- 老人クラブ・大学・通信事業者・シルバー人材センターと連携したオンラインコミュニティ創設【墨田区】 …P17
- 健康アプリの機能を活用し、「健康増進」の視点で楽しみながら行う健康づくり【大田区】 …P18
- 高齢者のQOL向上を目指した総合的なデジタルデバイド解消事業【渋谷区】 …P19
- いいね!!シニア“デジ活”共育プロジェクト【江戸川区】 …P20
- つながり創出による高齢者の健康増進事業【調布市】 …P21
- 高齢者のデジタルデバイド解消及びQOL向上に向けた暮らしと学びのデジタル化支援事業【町田市】 …P22
- 高齢者等生きがいポイントを利用した「3つのつかう」活動に基づく介護・フレイル予防事業【狛江市】 …P23

オンラインを通じた様々な支援と地域人材を有機的に結びつけて  
デジタルデバイドを解消し、介護予防や健康づくりの取組を推進

## 事業内容

### ◆デジタルデバイド解消のためのICT意識調査

- 行政情報を受け取れていない住民の属性・実態を調査
- 高齢者のデジタルで発信された情報の受取について分析

### ◆デジタル活用支援員の配置

- スマホ等の端末操作方法に関する助言・相談
- 地域内6か所に相談窓口と支援員を設置  
〔支援員〕  
・コロナ禍でアルバイト収入が絶たれた大学生等

### ◆スマートフォン普及体験事業

- 〔対象者数〕1,000人（令和4、5年度募集予定数）
- 操作方法をレクチャーする講習会
  - 端末を貸与し、実生活での利用を通じて利便性を実感  
（6か月間貸出し）
  - コールセンター、相談窓口を設け、途切れない支援体制

### ◆オンライン介護予防

- 自宅で行える双方向のオンライン健康トレーニングプログラム
- WEB会議ツールを使用し、理学療法士等が運動指導動画等配信
- 参加者等に、使い方のデジタル講習会

### ◆健康長寿アプリの開発

- 気軽に楽しみながら活用できるアプリ
- 地域への波及効果を見込んだコンテンツを実装
  - ・地域内共通商品券等と交換可能なポイント付与
  - ・まちを満喫しながら健脚を目指すウォーキングコース
  - ・アプリ上で健康管理数値をダッシュボード化し、目標設定
  - ・その他介護予防事業の紹介



## ポイント

- 高齢者へ端末を貸与し、その使用方法についてきめ細かく支援するとともに、自宅からでも気軽に参加できる運動コンテンツを充実させることで、デジタルデバイドを解消するとともに、高齢者の健康活動を促進
- アプリ開発により、健康増進活動の促進や地域振興につながるポイントを導入するものであり、他分野への波及効果が期待できる取組である

老人クラブの高い組織率を活かし、老人クラブを単位としたオンライングループを作成  
大学生のICT能力を活かした高齢者のデジタルデバインド解消+高齢者と地域のつながり確保

## 事業内容

### ◆スマートフォン活用支援

- ・スマホ講習会(シルバー人材センター、通信業者、大学等)
- ➔ 受講した高齢者は補助スタッフとして活動



### ◆大学生の参画による世代間交流

- ・スマートフォン講習会へのサポート
- ・区内施設でデジタル茶房開催  
(高齢者の簡単なスマホ相談を受ける)

### ◆アプリ「みんチャレ」を活用し、スマホ操作の習慣化

- ・グループで散歩や体操などの取組をアプリを通じて報告し合い、  
老人クラブのつながりによる習慣化
- ➔ 健康増進・スマホ習熟度向上



同じ目標の仲間同士、  
5人1組のチームに参加!

毎日歩数をチームに  
写真で報告!

続けるとコインが溜まり、  
寄付(社会貢献)できる!

三井物産株式会社  
みんチャレ

## ポイント

- 老人クラブへの加入率が高い地域特性を活かすとともに、地元大学の学生が参画することにより、効果的なICT活用支援を実施し、デジタルを活用した交流を活性化する
- 「みんチャレ」アプリやLINEの活用による、健康増進やスマホ習熟度の向上の取組を実施し、QOL向上を図る

## 「健康増進」をカギに、健康アプリの機能を生かした 健康遊具の有効的な使用とウォーキングコースの活用による高齢者のQOLの向上

### 事業内容

- ◆健康増進に繋がる活動に、健康アプリでポイント付与(ウォーキング歩数、健(検)診、イベント参加、区内スポットの訪問等)
- ◆公園をめぐるウォーキングコースを設定、コース上の公園に健康遊具を設置 → 位置情報によるポイント付与を追加
- ◆健康遊具のQRコードから、現地でスマホを使って使い方解説動画を視聴可能
- ◆健康アプリの地図上にお気に入りポイントの写真・感想を投稿する機能を追加や、タイムライン機能を活用したフォトコンテストの開催  
→ デジタル活用により、楽しみながら運動し、公園やまちの魅力を発信、新たな出会いやコミュニケーションの機会も創出



スマホでQRコードを  
読み取ることで  
動画解説



写真を投稿し、  
健康アプリの地図上で発信



### ポイント

- デジタルを活用した高齢者の健康増進施策と高齢者の運動意欲を向上させる公園整備を一体的に実施するものであり、行政分野の垣根を超えた先進的な取組である
- 健康アプリには、ポイント付与によるインセンティブに留まらず、利用者による発信や利用者同士の交流により、さらなる参加促進につなげる工夫がなされている

スマホ未保有者が多い高齢者（70代で約7割）のデジタル機器利用を促進し、  
「新しい生活様式」における健康増進、防災、つながり等に効果を発揮

## 事業内容

### ◆スマートフォン無料貸与（2年間）

- ・未保有の65歳以上の高齢者（希望制）に貸与

### ◆スマートフォン活用支援

- ・スマホ講習会、個別相談会、コールセンターによるアフターフォロー
- ・デジタル活用支援員（住民の有償ボランティア）
- ➔ スマホサロン、シニアクラブ等で高齢者のスマホ活用をサポート

### ◆アプリを活用した分野横断的取組

- ・防災情報の迅速・確実なプッシュ通知
- ・LINEによるオンラインサービスの推進各種申請、健康相談ほか
- ・区内スタートアップ企業と連携したアプリの開発・提供
- ・介護予防・フレイル予防の促進及び見守りの推進
- ・デジタル地域通貨（ハチペイ）と連携した地域振興、コミュニティ活性化

### ◆データの収集・分析

- ・ログデータを収集・分析し、施策・コンテンツの見直し・改善



スマホ講習会



健康アプリでポイント付与

電子マネー  
地域通貨に交換



スマホサロン

デジタル活用支援員



デジタル地域通貨



## ポイント

- 高齢者へ端末を貸与し、その使用方法について手厚く支援するとともに、コンテンツを充実させることで、デジタルを活用した高齢者の多様な活動を促進する切れ目のない取組を実施
- 端末から得られたビッグデータの分析により、高齢者施策をブラッシュアップする意欲的な取組である



産学官の連携により、リアル+オンラインの健康増進プログラム（運動・認知・食事）を実施  
 → コミュニティを形成し、“デジタルを使いたい”、“つながりたい”を波及

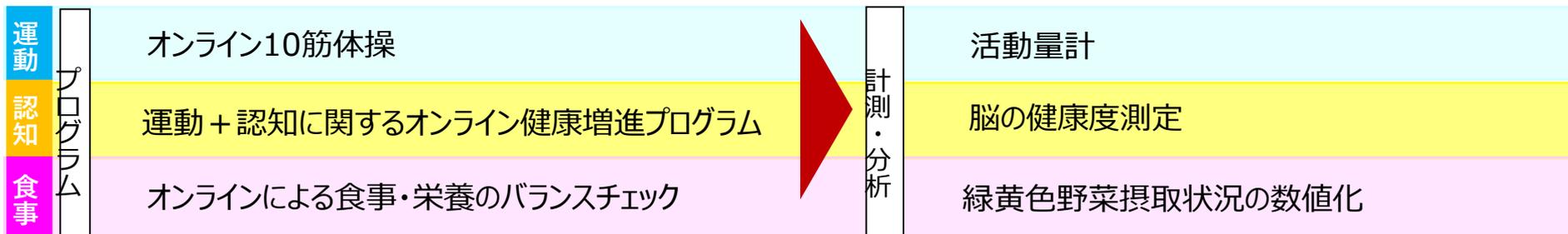
## 事業内容

### ◆リアル+オンラインの健康増進プログラム

- 参加を希望する高齢者をグループ化して実施
- 参加者にICT教育を実施（シニア向けスマホ講座等）
- リアル+オンラインで健康増進プログラム実施

### ◆デジタル活用で個人の活動量の分析

- データを蓄積し、ハイリスクアプローチにつなげる
- 健康プログラムに参加した結果をデジタル機器で計測



### ◆リアル+デジタルのつながりの拠点「デジタルリビングラボ」を設置

- 空き家/空きスペース活用を目指す
- ICT教育の拠点：不慣れな高齢者に地域住民がレクチャーする仕組みを検討
- つながりの拠点：共通の悩みや興味関心のある人をコミュニティ化
- イベントの拠点：無関心層の興味を持っていただくための各種イベントを開催

運動+認知  
プログラム



活動量計で計測・記録



脳の健康度測定



## ポイント

- 地元大学や民間企業とともに設立したコンソーシアムを中核とし、それぞれの持つデジタル技術・ヘルスケアの知見を活用して実施する先進的な取組である
- リアルだけでなくデジタルを活用し、高齢者が楽しんで行える多角的な健康プログラムと効果測定を実施

緑黄色野菜  
摂取状況の数値化



高齢者が普段利用する図書の貸し出しをデジタル化することで  
継続的なICT活用機会創出によるデジタルデバイス解消を目指す

## 事業内容

### ◆デジタル利用支援講座

- ・高齢者を中心としたデジタルサービスの利用方法、情報リテラシーを学ぶ講座を実施。また、地域内各地で出張講座も実施

### ◆気軽にデジタル利用の相談ができる場の整備

- ・図書館及び生涯学習センターにタブレット・スマホ端末の操作支援員を定期的に配置
- ➔ 基本的な操作、電子書籍の利用方法について教える

### ◆電子図書館の導入

- ・利用登録することで、オンライン上で電子書籍を借りられるシステムを導入
- ・電子書籍の購入
- ➔ 高齢者が好む雑誌類、孫への読み聞かせ用の絵本を充実

- ・地域内各地での出張講座
- ・図書館・生涯学習センターにおけるタブレット等操作支援



講座環境整備



WiFi環境整備

図書サービスのデジタル化により  
日常の中でデジタルデバイスに  
触れる機会が生まれる



**デジタル活用能力向上**

他行政サービス等デジタルサービスの活用も可能になりQOL向上

## ポイント

- 域内各地での利用支援講座に加え、図書館など身近な拠点へのデジタル支援員の配置など、きめ細かなデジタルデバイス対策を実施
- 高齢者の日常的なデジタル機器の利用を促進するため、電子図書館という高齢者が普段使いできるコンテンツを導入

## 認知症・介護・フレイル予防コンテンツの発掘及びポイント付与制度による 健康増進活動に関する幅広い住民への動機づけ

### 事業内容

#### ◆認知症・介護・フレイル予防等の地域資源発掘調査

- ・民間事業として実施されているウォーキング等の身体活動及び学習講座等の文化活動事業をアンケート調査

#### ◆情報発信アプリ、サイトの検索機能等向上

- ・3つの使う（体を使う、頭を使う、気を遣う）に該当する活動を検索しやすくするキーワード検索機能を追加
- ・ポイント付与、管理機能を追加

#### ◆情報発信アプリの使い方講座

- ・高齢者に向けてアプリのダウンロード、ポイント対象の検索方法を講習

#### ◆認知症・介護・フレイル予防活動への参加に対してポイントを付与

- ・身体活動に加えて、頭や気を遣う活動も対象とする  
(例：終活・相続等の講演会、清掃活動、物忘れ相談会等)

・地域資源発掘調査

→有望な地域資源について地域包括支援センターから専門職を派遣し事業拡大の相談に乗る



随時追加掲載

- ・検索機能向上
- ・ポイント付与機能追加

### 情報発信アプリ、サイト

※R3.10.1以降に改修リリース予定



アプリの使い方講座

- ・3つの使う活動への参加（体を使う、頭を使う、気を遣う）



- ・ポイント付与

### ポイント

- 公共施設を中心とした健康増進講座が飽和状態にある中、民間で実施される講座の掘り起こしと既存講座のオンライン化により、より多くの住民の参加できる機会を確保

- 健康増進活動の充実に加えて、ポイント付与制度の導入など参加者増加に向けた多面的な取組を実施

# 4. 「みんなの居場所」創出プロジェクト

○ 次ページ以降から紹介する4事業は本プロジェクトに基づき採択されたものです。  
 ※下図のスライドは採択事業ではありません。

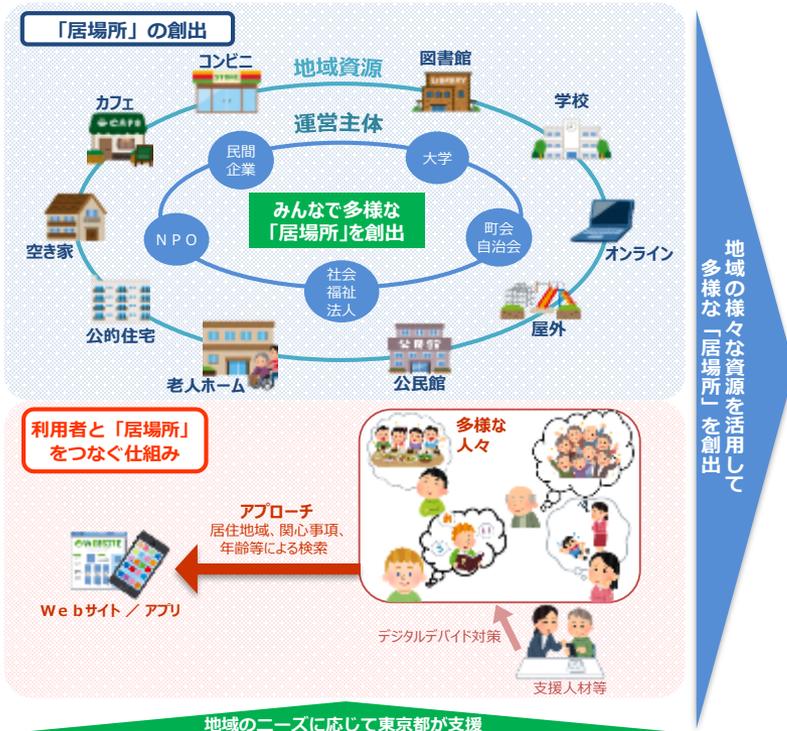
## 戦略7 「住まい」と「地域」を大切にする戦略

参考(「未来の東京」戦略 P168)

### 2. 「みんなの居場所」創出プロジェクト



○ 子供・若者、子育て中の方、外国人、高齢者、一人暮らしの方など様々な人が集い、交わり、悩みを分かち合える  
 様々な形の「居場所」を、リアルとオンライン双方の強みを活かして地域の至る所に創出する区市町村の取組を強力に支援



### 3年間のアクションプラン (主要)

具体的な取組	2020年度末 (見込み)	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
区市町村の先駆的・分野横断的取組を包括的に支援	新たな補助スキームの制度設計	2自治体	事業実施 区市町村の増加	事業実施 区市町村の増加

### 2030年への展開

■ 都内全域に居場所を1,000か所創出【2030年】  
 ・誰もが求める「居場所」につながる社会を実現

## 【採択事業一覧】 「みんなの居場所」創出プロジェクト

- 地域で育む日本語学習支援プロジェクト事業【港区】 …P26
- 緑道の再整備による地域共創型の多様なコミュニティ醸成【渋谷区】 …P27
- 普通教室の機能転換や地域通貨の導入等による地域・子どもの居場所づくりと担い手の創出【三鷹市】 …P28
- 私にとっての居場所に出会える「totte」プロジェクト【日野市】 …P29

外国人の地域参画を目指した日本語学習支援と受入れ環境整備+外国にルーツを持つ子供の保護者への支援

## 事業内容

### ◆外国人の日本語学習支援

- 基礎日本語教室
  - ・一時保育付きで実施
  - ・日本語学級、子育て支援施設を通じたアプローチ
  - ・生活に関する相談・支援体制整備
- やさしい日本語を用いた日本人と外国人の交流サロン

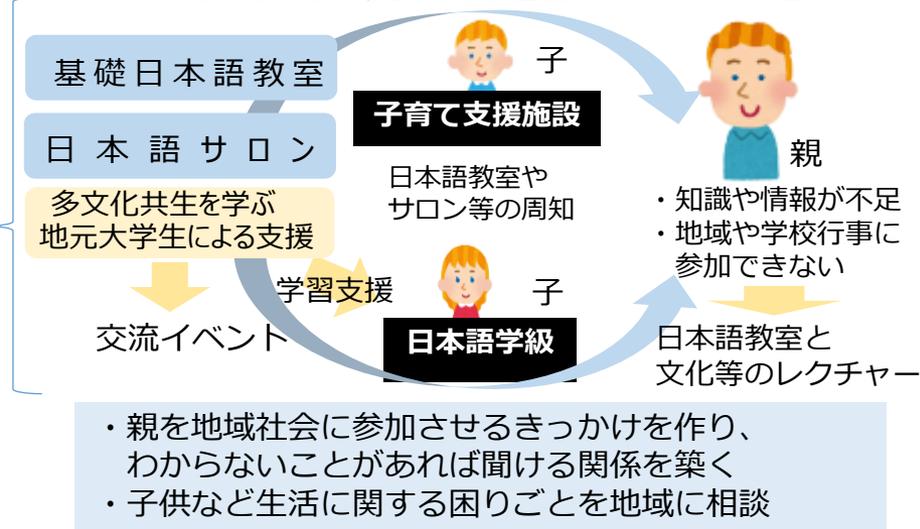
### ◆地域の受入れ環境整備

- 日本語学習支援ボランティアの育成
- 「やさしい日本語」の普及・啓発

### ◆外国人と日本人との交流促進事業

- 外国人と日本人のペア交流を行うマッチング活動
- 地元大学との連携による日本語学級に通う児童との交流
- 事業成果発表会（交流事業に参加者が活動記録を紹介 等）

### 地域との繋がりが希薄な在住外国人へのアプローチ



### ◆「国際・文化交流拠点」の開設準備

- 国際・文化交流拠点（令和6年度以降開設）  
地域の特性である、大使館・外資系企業をはじめ、様々な主体と連携して事業展開

## ポイント

■外国人の割合が多いという地域特性を踏まえ、外国人やその子供が地域から取り残されないよう、多文化共生の施策を展開

■外国人への支援、日本人の意識啓発など双方への取組に加え、相互交流の場の充実など多角的な取組を実施するとともに、日本語学級のネットワーク等を活用して支援講座を周知する「伝わる広報」も実践 26

豊かな緑を保全しつつ、「FARM」（農・食）をテーマとした地域共創型の緑道として再整備し、緑道から新たな創造活動を育てる（みんなで畑づくり、野菜づくり、子供が遊べる等）

## 事業内容

### ◆緑道再整備事業

- ・施設の老朽化 → 豊かな緑を保全しつつ新たなニーズに対応した再整備の実施
- ・ワークショップ等を活用しながら、地域住民・企業・小学校・エリアに関心のある人等の多様な主体の参画により、地域コミュニティを育み、地域共創型の緑道を目指す

### ◆コンセプト「FARM」

- ・文字通りの「農園」の意味に加え、新たな学びや対話の創造を通して地域コミュニティを「育てる」という意味も込められている  
＜整備イメージ＞
- ・農園 ・多様な使い方が可能なフリースペース
- ・子供の遊び場、水と触れ合える場

### ◆仮設FARM

- ・管理体制、地域や企業の参加方法、維持管理上のルール等の検証のため、仮設FARMを実施
- ・一部で、Iot機器や関連アプリを活用し、発芽から収穫までのスケジュール、水やりのタイミング等を把握、野菜づくりをする人のコミュニティに参加も可能

農園イメージ



Iot機器



## ポイント

- 地域の緑あふれる空間を活用した居場所の創出に向けて、多様な地域主体との対話を繰り返し、多くの人の参画やつながり創出が期待される地域交流の核となるよう、コミュニティファームなどを整備
- 仮設FARMでは、未経験者も参加しやすいようIot機器を活用して生育ノウハウの見える化を図るなど、様々な工夫を凝らすことで、土いじりなどの体験機会を創出し、新たなコミュニティの形成を促進

- コミュニティ・スクール（地域とともにある学校）からスクール・コミュニティ（学校を核とした地域づくり）へ
- 地域人財が学校に集まり、教育のみならず地域課題（防災、居場所づくり等）を学び合い、地域共助を实践

## 事業内容

### ▽これまでの取組

- ◆ 学校運営協議会の設置
- ◆ 学校と地域をつなぐコーディネーター（スクール・コミュニティ推進員）の設置

### ▽新たに実施する取組

#### ◆ スクール・コミュニティ推進会議

- ・市内全域で活動する団体が参画（住民組織、商工会、青年会議所、農協、スポーツ・文化団体、大学、NPO等）
- ➔ コミュニティ・スクールを中心とした教育ボランティア（授業補助、登下校の見守り）だけでなく、地域人財の掘り起しやコミュニティづくりを推進

#### ◆ ボランティアポイントの導入

- ・始めるきっかけ、続けるやりがいのため、独自のデジタル地域通貨をボランティアポイントとして付与

#### ◆ 放課後プログラムの開発

- ・サツマイモの生産、収穫、商品開発から販売、収支報告などを生徒主体で取り組むプログラムを実施中

#### ◆ 普通教室の機能転換

- ・学校を地域の「活動・学び・交流」の拠点とするための調査研究、普通教室にシャッター付ロッカーを導入

#### ◆ 放課後子供教室における子どもの安全と保護者の安心の確保

- ・ICカードで入退室管理、保護者にプッシュ通知

## ポイント

- 学校教育にとどまらない多様な地域活動やコミュニティの場として、学校を積極的に活用するため、地域人財の掘り起しに加え、地域活動と両立可能な学校の環境整備を実施
- さらに、地域活動に参加するやりがいとして、ボランティアポイントを新たに導入するなど、踏み込んだ取組を実施



## 住民同士が出会い、つながりが生まれやすくなる、住民主体の居場所づくり

## 事業内容

## ①誰でも気軽に利用できる居場所づくり

- ・集会施設を改装し、テレワークスペース、カフェなどを設置
- ・コミュニティマネジャーを配置（来場者同士のマッチング、イベントのコーディネート・案内など）

➡（平日）テレワークをしたり、子供を遊ばせながらお茶を飲める居心地の良い「居場所」  
（週末）平日顔を合わせる市民同士が楽しみながら交流するイベントを実施

ex. 子供に昔遊びを教える（けん玉、コマ回し、あやとり等）、こどもフリマ（子供が使わないおもちゃ、子供服を販売）  
住民の得意分野を生かした地元野菜を使った料理教室、クラシックギター演奏会等



②キャンプイベント

## ②未利用地を活用したアウトドアイベントを実施

- ・働き盛りの20～40代（地域参加が少ない）を対象にしたキャンプイベントを通じて人脈づくり、場づくりを学ぶ
- ➡ まちに係るきっかけづくりや自律的な活動創出、土地利用につなげ、テーマ性・目的性の高い居場所創出を目指す

## ③環境・地域コミュニティ施設を活用し、多様な主体をつなぐ体験・交流の充実

- ・ゲームなどエンタメコンテンツを活用した多世代交流イベントの実施
- ➡ 高齢者の認知トレーニング効果や子供の積極的な参加が期待できる
- ・地域資源の水環境を再現した水槽を設置(飼育体験)、隣接する保全地域の剪定体験、地域産材を活用した玩具づくり

## ④市内団体等と連携・検討による生涯学習ポータルサイトの充実・更新

- ・地域住民・団体から成るチームによるサイトのコンセプトとコンテンツを検討
- ex. 生涯学習に関するオンライン相談、サークル活動のオンライン発表会、セグメントごとのプッシュ型情報発信

## ポイント

- 多世代交流、地域コミュニティ活性化、子育て世帯のつながり創出、環境保全などの様々な地域課題に対して、子供から高齢者まで多世代が当事者として、楽しみながら参加できるよう、地域住民が主体となって議論し、居場所を創出する取組である

## 5. 参考

- 「未来の東京」 戦略（令和3年3月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/mirainotokyo-senryaku/>

- 「未来の東京」 戦略 version up 2022（令和4年2月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/versionup2022/>

- 「未来の東京」 戦略 version up 2023（令和5年1月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/versionup2023/>

- こども未来アクション（令和5年1月）

[https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/kodomo-seisaku/kodomo-mirai-action\\_1.pdf](https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/kodomo-seisaku/kodomo-mirai-action_1.pdf)